



アクセス ネットワーク ワークフロー

- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco アクセス ネットワーク ワークフローを使用するための前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [サポートされるデバイス \(2 ページ\)](#)
- [アクセス ネットワーク ワークフローの使用 \(3 ページ\)](#)

概要

Cisco Prime Infrastructure でのアクセス ネットワーク ワークフローは、企業の支社またはキャンパス ネットワーク内のルーティングされたアクセス ネットワークにおけるアクセス スイッチの展開を自動化します。これには、アクセス VLAN データベースの作成と管理、インターフェイス テンプレート管理、およびアクセス ポート設定が含まれます。アクセス ネットワーク ワークフローは、Cisco Catalyst 4500、3850、3650、2960XR、および 2960X の各シリーズのスイッチを使用したアクセスネットワークの導入を完全に自動化します。さらに、自動デバイス検出に基づいたアクセスポートの静的または動的なプロビジョニングも自動化されます。このワークフローは、該当するシスコのベストプラクティス設定を自動的に展開することで労力と時間を削減し、管理を目的とした一元化されたネットワーク表示を提供します。

アクセス ネットワーク ワークフローは、次のタスクを自動化します。

- 複数のアクセス スイッチの同時設定：管理者が複数のアクセス スイッチを同時にプロビジョニングすることが可能で、これによりネットワークプロビジョニングの労力が削減されます。シードデバイスからアクセス スイッチを自動的に検出できるため、ディストリビューション スイッチに接続しているすべてのアクセス スイッチを検出するための労力を最小限に抑えることができます。
- VLAN 管理：Cisco Prime Infrastructure は、アクセス レイヤで使用されるアクセス VLAN と音声 VLAN のデータベースを作成して維持できます。このデータベースはアクセス スイッチを設定するために使用され、VLAN 名の統一性を確保することにより VLAN の名称および ID の不一致エラーが回避されます。
- アクセス ポイントのプロビジョニング：テンプレートおよび VLAN を作成して適用し、以下の目的でアクセス ポートを自動的にプロビジョニングします。
 - 動的に検出可能なシスコデバイスの受け入れ (Cisco IP Phone、Cisco アクセス ポイント、Cisco ビデオ監視カメラ、Cisco TelePresence、Cisco Digital Media Player など)。

- OUI または MAC アドレスに基づいて動的に検出できるシスコ以外のデバイスの検出。
- 動的に検出できないラップトップなどのデバイスのサポート。
- 適用可能なシスコのベスト プラクティス設定の自動的導入。

Cisco アクセス ネットワーク ワークフローを使用するための前提条件

Cisco アクセス ネットワーク ワークフローを正常に使用するには、ネットワーク デバイスおよび Cisco Prime Infrastructure システムに関して次の前提条件が満たされていることを確認する必要があります。

- ルーティングされたアクセス ネットワーク：アクセス スイッチがレイヤ 3 インターフェイス経由でディストリビューション レイヤに接続されていることを確認します。
- 初期デバイス セットアップ：設定されている SSH/Telnet および SNMP を使用して Cisco Prime Infrastructure からデバイスに到達できる。
- デバイス オンボーディング：デバイスが Cisco Prime Infrastructure インベントリに追加されている。
- IOS ソフトウェア：デバイスが推奨されるソフトウェアバージョンを使用している（「[サポートされるデバイス](#)」を参照）。
- サポートされるプラットフォーム：デバイスは、サポートされる製品ファミリに属している必要があります（「[サポートされるデバイス](#)」を参照）。

サポートされるデバイス

次の表は、アクセス ネットワーク ワークフローでサポートされるスイッチを示しています。

表 1: サポートされるスイッチ

製品	SKU タイプ	モード	モジュール	最小ソフトウェアバージョン	最小ソフトウェアライセンス
WS-C2960X	Copper/POE	スタンドアロン (Standalone)	-	IOS 15.2.2E	LANbase
WS-C2960X	Copper/POE	FlexStack	-	IOS 15.2.2E	LANbase
WS-C2960XR	Copper/POE	スタンドアロン (Standalone)	-	IOS 15.2.2E	IP Lite
WS-C2960XR	Copper/POE	FlexStack	-	IOS 15.2.2E	IP Lite

製品	SKU タイプ	モード	モジュール	最小ソフトウェアバージョン	最小ソフトウェアライセンス
WS-C3650	Copper/POE	スタンドアロン (Standalone)	-	IOS-XE 3.7.3	IPBase
WS-C3650	Copper/POE	StackWise	-	IOS-XE 3.7.3	IPBase
WS-C3850	Copper/POE/mGig	スタンドアロン (Standalone)	-	IOS-XE 3.7.3	IPBase
WS-C3850	Copper/POE/mGig	StackWise	-	IOS-XE 3.7.3	IPBase
WS-C45xx-E	Copper/POE/mGig	スタンドアロン (Standalone)	47xx シリーズと 46xx シリーズのラインカードを搭載した、シングルおよびデュアル SUP (SUP7E または SUP8E)	IOS-XE 3.6.4 以降	IPServices
WS-C45xx-R+E	Copper/POE/mGig	スタンドアロン (Standalone)	47xx シリーズと 46xx シリーズのラインカードを搭載した、シングルおよびデュアル SUP (SUP7E または SUP8E)	IOS-XE 3.6.4 以降	IPServices

アクセス ネットワーク ワークフローの使用

アクセス ネットワーク展開プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [サービス (Services)]>[ネットワーク サービス (Network Services)]>[アクセス ネットワーク (Access Network)]を選択します。
- ステップ 2 [新規展開 (New Deployment)]をクリックして、新しい展開プロファイルを作成します。
- ステップ 3 [はじめる前に (Before you Begin)] ページに記載されている前提条件が満たされていることを確認してから、[開始 (Begin)]をクリックします。
- ステップ 4 [展開名 (Deployment Name)]と[説明 (Description)]を入力し、[保存 (Save)]をクリックします。

- ステップ 5** [アクションパネル (Action Panel)] で [デバイスの追加 (Add Devices)] をクリックし、設定するデバイスを選択します。
- ステップ 6** [追加 (Add)] をクリックします。
シスコのベストプラクティス設定が新しいデバイスに自動的に追加されます。
- ステップ 7** または、シードデバイスの IP アドレスを入力してシードデバイスの CDP ネイバーのリストを表示することにより、デバイスを追加することができます。
- ステップ 8** デバイスの実行コンフィギュレーションのバックアップをデバイスのローカルストレージに作成する場合は、ポップアップウィンドウで [はい (Yes)] をクリックします。
[アクティビティログ (Activity Log)] に、新しく追加したデバイスのベストプラクティス設定ジョブのステータスおよびバックアップジョブのステータスが表示されます。[アクセス管理 (Access Management)] ページに移動する前に、ジョブが [完了 (Completed)] ステータスになるまで待つ必要があります。[アクティビティログ (Activity Log)] にエラーが表示されている場合は、デバイスに CLI 展開エラーを引き起こすような互換性のない設定がある可能性があります。CLI エラーの詳細を参照するには、[管理 (Administration)] > [ダッシュボード (Dashboards)] > [ジョブダッシュボード (Job Dashboard)] に移動します。障害が発生したデバイスを削除し、エラーを修正してからもう一度デバイスを追加できます。
- ステップ 9** (任意) [デバイスグループ (Device Group)] ペインからデバイスを削除する場合は、デバイスを選択し、[アクションパネル (Action Panel)] で [デバイスの削除 (Remove Devices)] をクリックします。
- ステップ 10** [次へ (Next)] をクリックして [アクセス管理 (Access Management)] ページに移動し、インターフェイステンプレートを [追加 (Add)]、[削除 (Remove)]、または [更新 (Update)] します。
- ステップ 11** [アクションパネル (Action Panel)] で [追加 (Add)] オプションボタンをクリックし、次の手順を実行します。
- ワークグループ、カスタムテンプレートおよび組み込みテンプレート (エンドポイント) が含まれているドロップダウンリストからテンプレートタイプを選択します。
 - [名前 (Name)] を入力します。[テンプレート名 (Template Name)] は、入力した名前に基づいて自動的に入力されます。
 - カスタムテンプレートを選択した場合は、デバイスの分類タイプおよび分類値を入力します。
 - 使用可能な VLAN から VLAN を選択するか、または新しい VLAN 名を入力します。
その VLAN が存在しない場合は、入力した VLAN 名に対する VLAN ID がワークフローで自動的に作成されます。VLAN 名はスイッチ間で共通であると予期されますが、さまざまなスイッチでさまざまな VLAN ID に関連付けることができます。
 - [適用 (Apply)] をクリックします。
 - (任意) 新しい VLAN を作成するときに手動で VLAN ID を入力する場合は、[アクションパネル (Action Panel)] で [VLAN (VLANs)] タブをクリックし、[自動 VLAN ID (Auto VLAN ID)] を OFF に設定し、テーブルに VLAN ID を入力します。
 - [展開 (Deploy)] をクリックします。
- ステップ 12** テンプレートが一部のデバイスに存在しないかその他のデバイスと同期していないことを示す赤の [i] アイコンがテンプレートに付いている場合は、[更新 (Update)] をクリックしてこれらのテンプレートをすべてのデバイスに再展開して同期させるか、または [削除 (Remove)] を選択して不要なテンプレートを削除します。

- ステップ 13** [次へ (Next)] をクリックして [ポート管理 (Ports Management)] ページに移動し、ポート グループの管理およびポートの設定と管理を行います。
- ステップ 14** 新しいポート グループを作成するには、[追加 (Add)] オプション ボタンをクリックし、[アクション パネル (Action Panel)] で次の手順を実行します。
- [グループ名 (Group Name)] に入力します。
 - ワークグループ、カスタム グループおよび組み込みグループ (エンドポイント) が含まれているドロップダウン リストからポート グループ タイプを選択します。
 - 選択したポート グループ タイプに基づいて、[AutoConf] オプション および [AutoQoS] オプションを [オン (ON)] または [オフ (OFF)] に設定します。
 - [展開 (Deploy)] をクリックします。
- ステップ 15** [アクション パネル (Action Panel)] の [ポート設定 (Port Config)] タブをクリックして、ポートをポート グループにバインドするか、または個々のポートを設定します。
- [ポート (Ports)] ペインでデバイス ポートを選択します。
 - [アクション パネル (Action Panel)] で [ビルディングのグループ化 (Group Binding)] オプション ボタンをクリックします。
 - [グループ名 (Group Name)] ドロップダウン リストからポート グループを選択し、選択したポートをポート グループに追加します。
 - [適用 (Apply)] をクリックします。
 - [展開 (Deploy)] をクリックします。
 - [ポート (Ports)] ペインでデバイス ポートを選択し、[ポートの設定 (Configure Ports)] オプション ボタンをクリックします。
 - [アクション パネル (Action Panel)] で、テンプレート タイプ、テンプレート名、データ VLAN、AutoConf、および音声 VLAN を選択します。
 - [適用 (Apply)] をクリックします。
 - [展開 (Deploy)] をクリックします。
 - [ポート (Ports)] ペインでデバイス グループを選択し、[QoS ポリシー (QoS Policy)] オプション ボタンをクリックし、必要に応じて [Auto QoS (Automatic QoS)] を [オン (ON)] または [オフ (OFF)] に設定します。
- QoS は、自動的にポートで有効になりません。必要な場合、アクション パネルで Auto QoS を有効にすることができます。Auto QoS を有効にするときは、トランク ポート、L3 ポート、または既存の QoS ポリシーがあるポートを選択しないでください。
- [適用 (Apply)] をクリックします。
 - [展開 (Deploy)] をクリックします。
- ステップ 16** [アクション パネル (Action Panel)] で [管理 (Add)] タブをクリックし、次の手順を実行します。
- [ポート (Ports)] ペインでポートを選択します。
 - 必要に応じて [アップ (Up)]、[ダウン (Down)]、または [リセット (Reset)] の各オプション ボタンをクリックし、ポート ステータスを変更します。
 - [展開 (Deploy)] をクリックします。
- ステップ 17** [次へ (Next)] をクリックして、作成した展開プロファイルの設定概要を表示します。

関連トピック

[Cisco アクセス ネットワーク ワークフローを使用するための前提条件 \(2 ページ\)](#)

[サポートされるデバイス \(2 ページ\)](#)